



## 第8回バイオロギング国際シンポジウム

“バイオロギングで自然の秘密を解き明かす：海中から陸上、そして宇宙への旅”

“Unlocking Nature’s Secrets: A Journey from Underwater Realms to Outer Space”

日時: 2024年3月9日(土) 10:00~12:30

会場: 東京大学 伊藤国際学術研究センター地下2階 伊藤謝恩ホール

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/iirc/ja/access.html>

参加費: 無料 (対面参加者には特製クリアフォルダとエコバッグをプレゼント)

申込み: 以下のサイトもしくは右のQRコードからオンラインでお申し込み下さい。

<https://forms.gle/CC4HxJxnFFTph4SK9>

問い合わせアドレス: [bls8tokyo@gmail.com](mailto:bls8tokyo@gmail.com)



2003年に第1回国際シンポジウムを東京で開催する際に「バイオロギング」という言葉が生まれました。その後、2~3年間隔で世界各地でバイオロギングシンポジウムが開催されています。この度21年ぶりに再び東京で第8回バイオロギング国際シンポジウムが開催されます。それに合わせて、高校生と大学生向けの講演会を、対面とオンラインを融合したハイブリッド形式で開催します。大学に所属する研究者とNASAの宇宙飛行士が、野外生物学に関する魅力的で親しみやすい話をします。英語による講演では、適宜日本語による解説も行います。講演後には質疑応答の時間も設けます。会場への参加者は400人で締切りますので、お早めの応募をお願いします。まずは高校生・大学生で募集しますが、人数に余裕があればそれ以外の方々にも対面で参加していただけます。



## プログラム

- 10:00～ イン트로ダクション(檜崎友子)  
10:10～ 講演1 佐藤克文博士(東京大学大気海洋研究所)  
10:45～ 講演2 ロクサーヌ・ベルトラン博士(カリフォルニア大学サンタクルーズ校)  
11:20～ 講演3 クリスチャン・ルッツ博士(セントアンドリュース大学)  
11:55～ 講演4 ジェシカ・ミアー博士(NASA) オンライン講演

### 講演者:

#### 1. 佐藤克文博士

東京大学大気海洋研究所 教授  
“高校までに学ぶ物理や化学で解き明かす水生動物の行動 Why should you study physics and chemistry?: Swimming behavior of aquatic animals governed by the laws of physics”

右の表紙に見覚えはありませんか？中学校2年の国語教科書に、「生物が記録する科学：バイオリギングの可能性」という文章が掲載されています。それを読んでいる皆さんは既にバイオリギングという言葉を知っているかもしれません。教科書に書ききれなかったバイオリギングの話、動物搭載型の加速度記録計を使ってこれまで明らかにしてきたペンギンやアザラシの浮力に対応した遊泳行動について紹介します。

<http://www.fishecol.aori.u-tokyo.ac.jp/sato/>



#### 2. ロクサーヌ・ベルトラン博士

カリフォルニア大学サンタクルーズ校  
Dr. Roxanne Beltran (University of California Santa Cruz):

“ゾウアザラシを通じて明らかになった  
広い外洋の世界 Open Ocean  
Discoveries Through Partnerships  
with Elephant Seals”

米国カリフォルニアで繁殖するキタゾウアザラシや南極のウェッデルアザラシの研究をしています。人による観測が遅れている海の外洋域について、様々なデータロガー

を取り付けたアザラシがどんな発見をもたらしたのかについて紹介します。「A Seal Named Patches」という児童書も出版しています。

<https://beltranlab.ucsc.edu>

### 3. クリスチャン・ルッツ博士 セントアンドリュース大学

Dr. Christian Rutz (University of St Andrews):

“私の旅: 道具を使う熱帯のカラスの研究から地球規模の協力ネットワークの構築まで  
My journey from studying tropical, tool-using crows to building global-scale collaborative networks”

道具を使うニューカレドニアのカラス(写真で手にしているのがその道具です)を観察するという課題をきっかけに、野鳥に搭載するビデオロガーを使った研究を進めてきました。国際バイオリギング協会の会長であり、パンデミックによるロックダウン中の動物の移動パターンの変化を研究する新型コロナウイルス感染症バイオリギング・イニシアチブの研究代表者も務めています。

<https://www.st-andrews.ac.uk/biology/people/cr68>



### 4. ジェシカ・ミアー博士(オンライン講演)

Dr. Jessica Meir (NASA)

バイオリギング手法を用いたエンペラーペンギンの潜水生理学研究でスクリップス海洋研究所から博士号を取得した後、2013年にNASAの宇宙飛行士に選ばれました。最近第61次と62次の長期滞在で国際宇宙ス

テーションの航空技術者を務めました。宇宙でも使われているバイオリギングの技術について、オンラインで講演します。その後、質疑応答にも参加します。

<https://www.nasa.gov/people/jessica-u-meir/>

モデレーター: 檜崎友子博士 名城大学

日本の高校を卒業後、動物学と英語と一緒に学びたくてオーストラリアの大学へ進学。卒業後は、東京大学大気海洋研究所の大学院に入り、ウミガメを対象としたバイ

オロギング研究で博士号を取得しました。その後、博士研究員としてセントアンドリュース大学に留学し、クジラを対象としたバイオロギング研究を進めました。現在は名城大学の教員として、日本国内のフィールドや水族館で研究を行っています。

<https://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/lab021/>



解き明かせ！海の生物の知られざる暮らし

バイオロギング支援基金



東京大学基金

Giving to UTokyo



公益財団法人 東京観光財団  
Tokyo Convention & Visitors Bureau



**BIO-LOGGING SCIENCE**

日本バイオロギング研究会